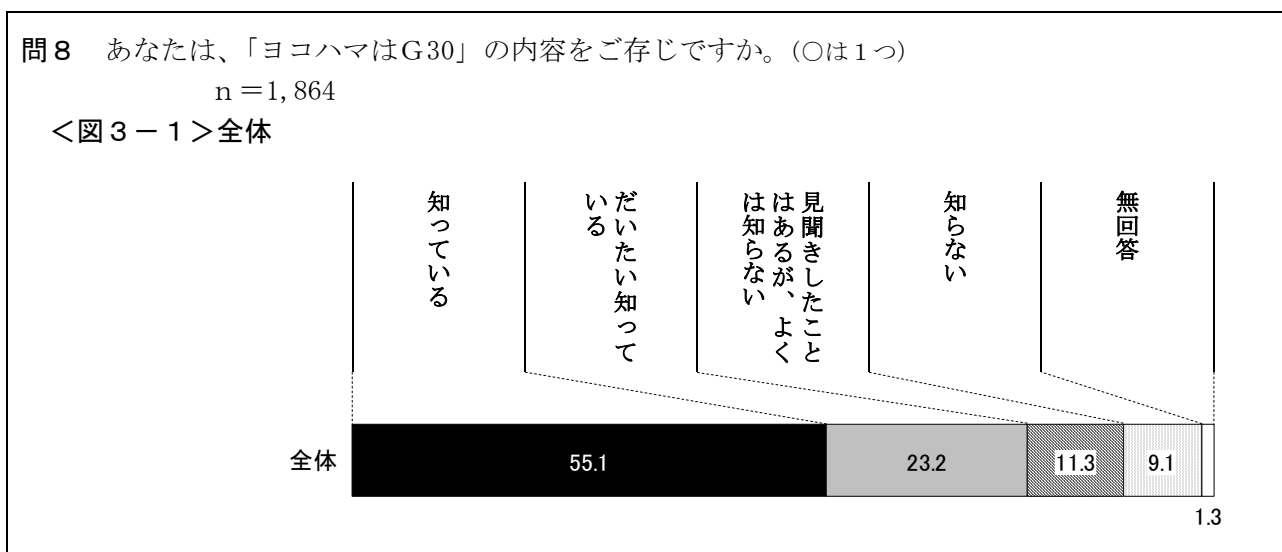


3 ごみ減量

(1) 「ヨコハマはG30」の認知度

◇【知っている（計）】は8割弱で、【知らない（計）】は2割



「ヨコハマはG30」の認知度は、「知っている」(55.1%)は過半数を占め、これに「だいたい知っている」(23.2%)を合わせた【知っている(計)】(78.3%)は8割に近くなっている。また、「見聞きしたことはあるが、よくは知らない」(11.3%)と「知らない」(9.1%)を合わせた【知らない(計)】(20.4%)は2割である。(図3-1)

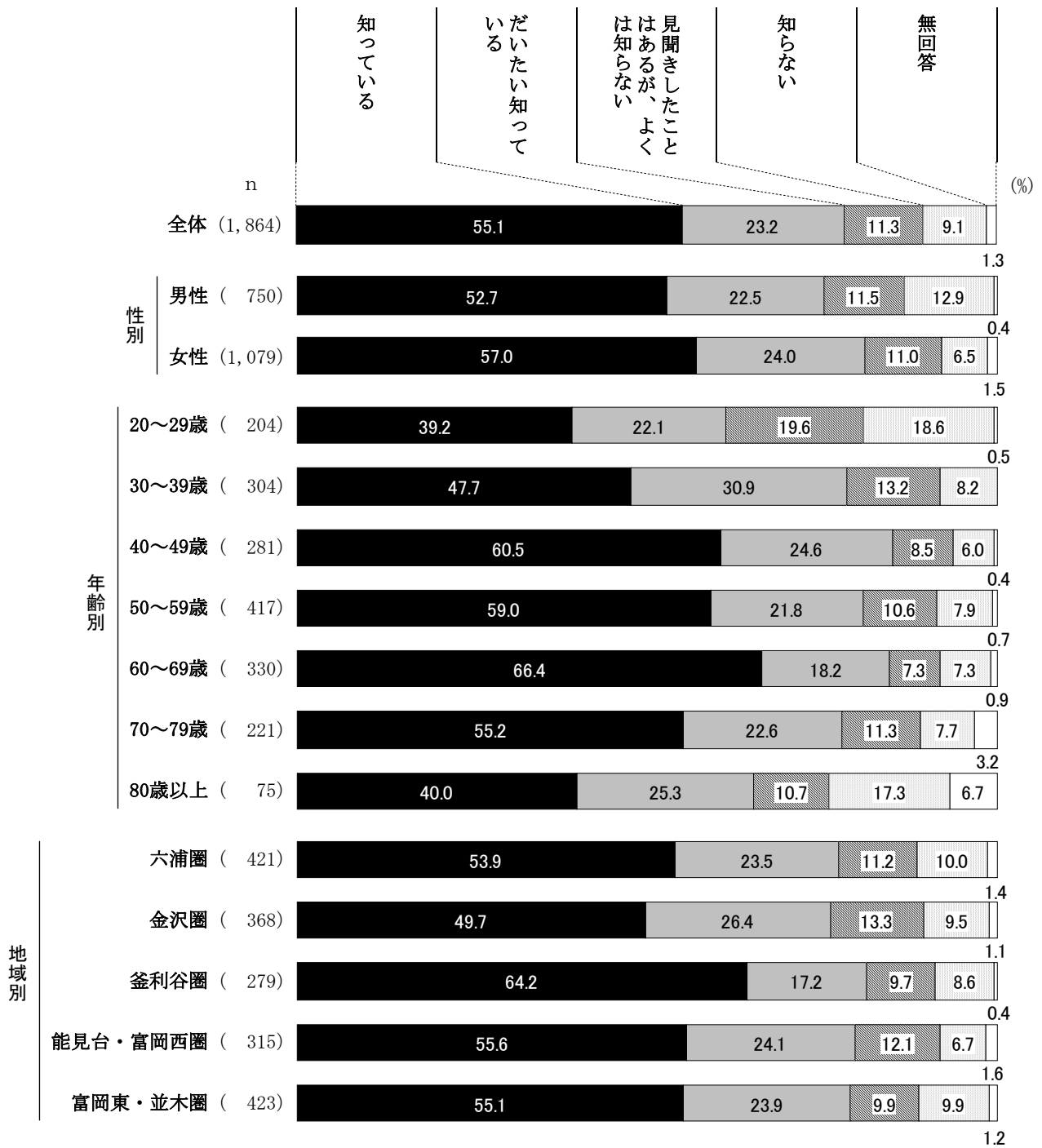
□属性別比較

性別でみると、「知っている」は女性が男性を4ポイント上回り、【知っている(計)】では女性の方が6ポイント高くなっている。【知らない(計)】は男性が7ポイント上回っている。

年齢別では、「知っている」は60歳代で3人に2人と高く、40歳代で6割を超える。【知っている(計)】では40歳代と60歳代で8割台半ばとなっている。また、【知らない(計)】は20歳代で4割に近く、80歳以上で3割に近い。

地域別では、「知っている」は釜利谷圏で6割台半ば、【知っている(計)】も同地域は8割を超えて比較的高い。(図3-2)

<図3-2>性別／年齢別／地域別



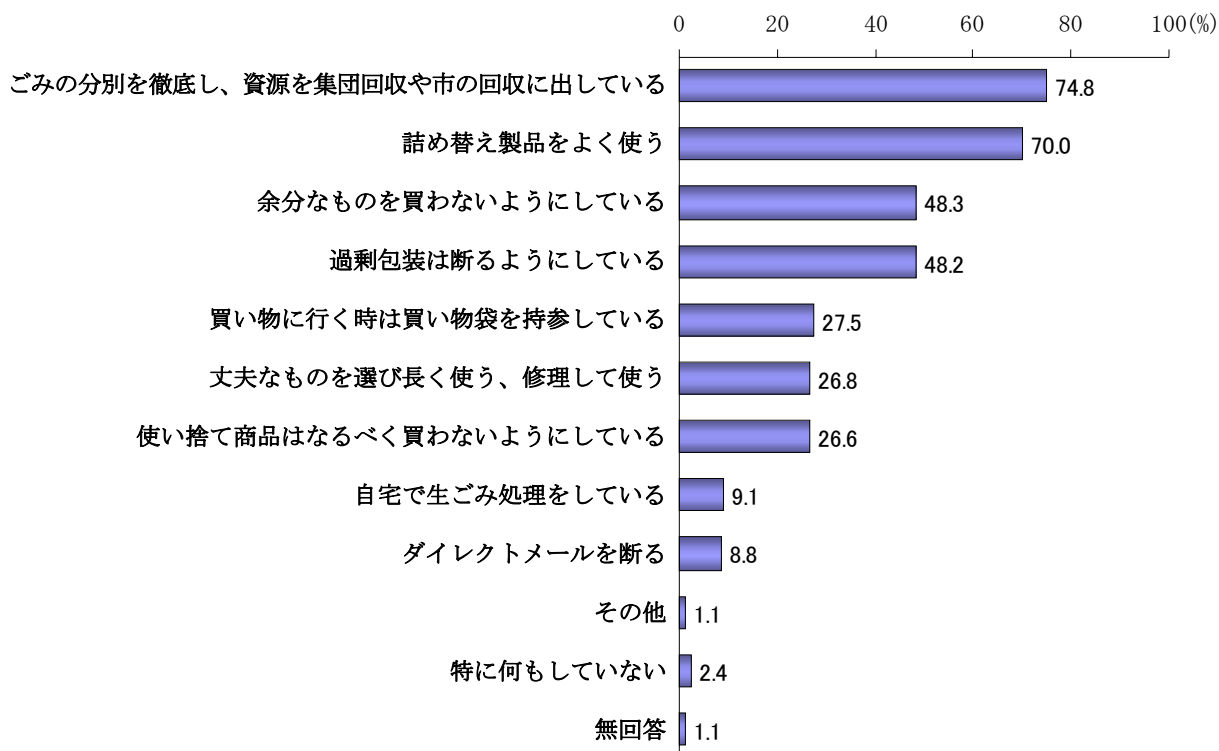
(2) ごみを減らすための普段の心がけ

◇「ごみの分別を徹底」が4世帯に3世帯、「詰め替え製品をよく使う」が7割

問9 「ヨコハマはG30」とは、「平成22年度における全市のごみの排出量を平成13年度に対し30%削減する」ことを目標とした減量・リサイクル行動の合い言葉です。あなたのご家庭では、ごみを減らすために普段から何か気をつけていることはありますか。(〇はいくつでも)

n = 1,864

<図3-3>全体



家庭でのごみ減量のために気にかけていることとしては、「ごみの分別を徹底し、資源を集団回収や市の回収に出している」(74.8%)が4世帯に3世帯で、次の「詰め替え製品をよく使う」(70.0%)は7割である。これに続く「余分なものを買わないようにしている」(48.3%)と「過剰包装は断るようになっている」(48.2%)の2つは半数に近い。(図3-3)

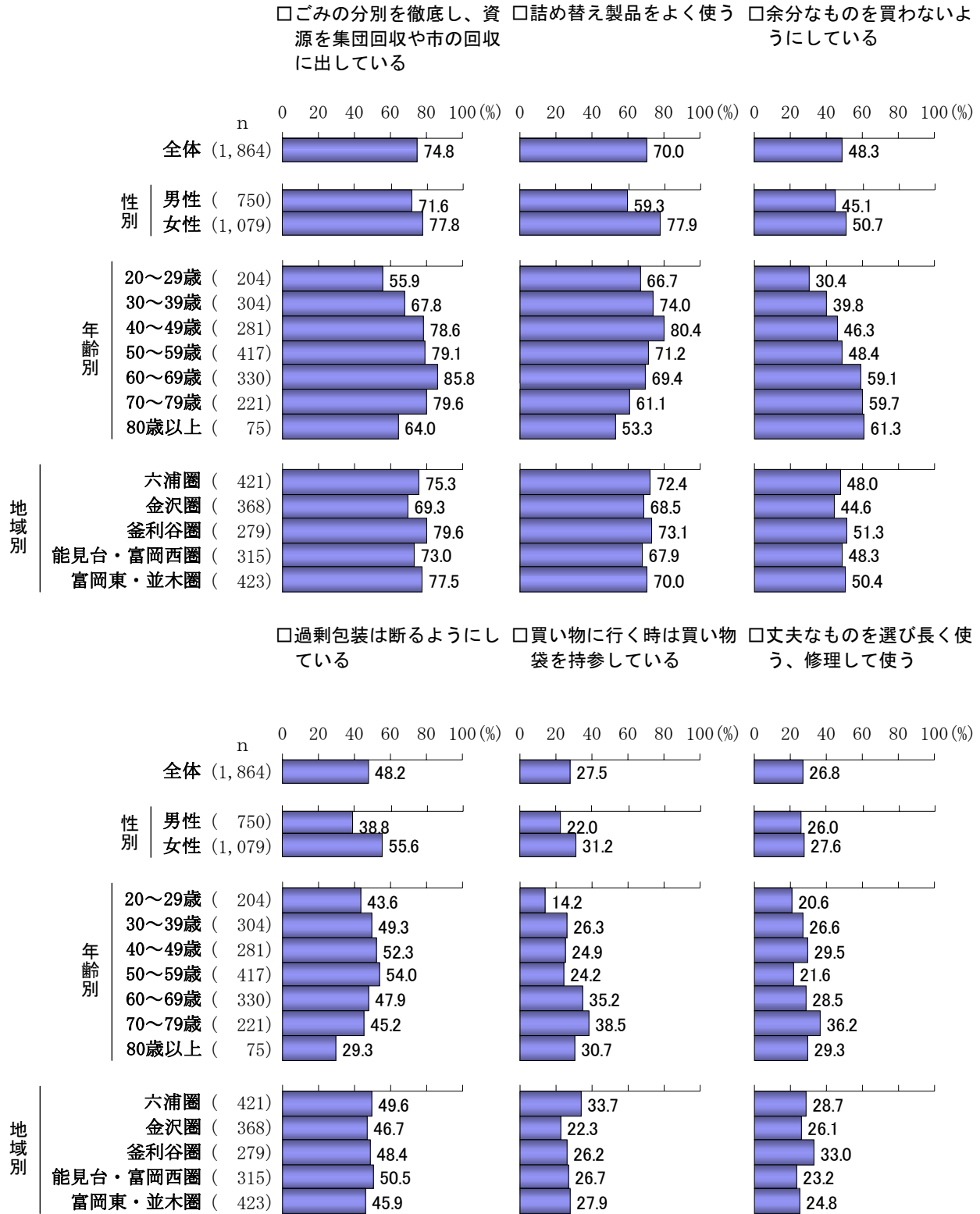
□属性別比較

性別でみると、どの項目も女性の方が男性を上回っており、中でも「詰め替え製品をよく使う」は19ポイント差、「過剰包装は断るようになっている」は17ポイント差などと開きがある。

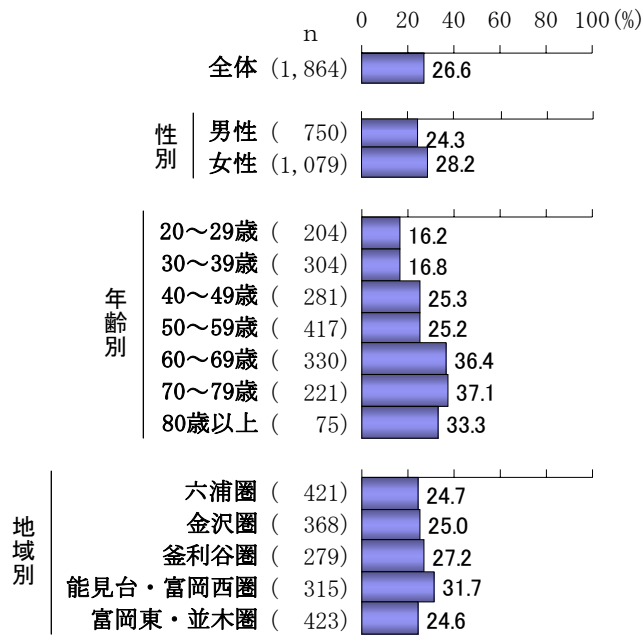
年齢別では、「ごみの分別を徹底し、資源を集団回収や市の回収に出している」は60歳代で8割台半ばと高く、「詰め替え製品をよく使う」は40歳代で8割台に乗っている。「余分なものを買わないようにしている」は60歳以上で6割台前後、「買い物に行く時は買い物袋を持参している」は70歳代で4割に近い。また、「丈夫なものを選び長く使う、修理して使う」は70歳代で3割台半ばを超えている。

地域別では、「買い物に行く時は買い物袋を持参している」は六浦園で、「丈夫なものを選び長く使う、修理して使う」は釜利谷園で、ともに3人に1人となっている。(図3-4)

<図3-4>性別/年齢別/地域別（上位7項目）

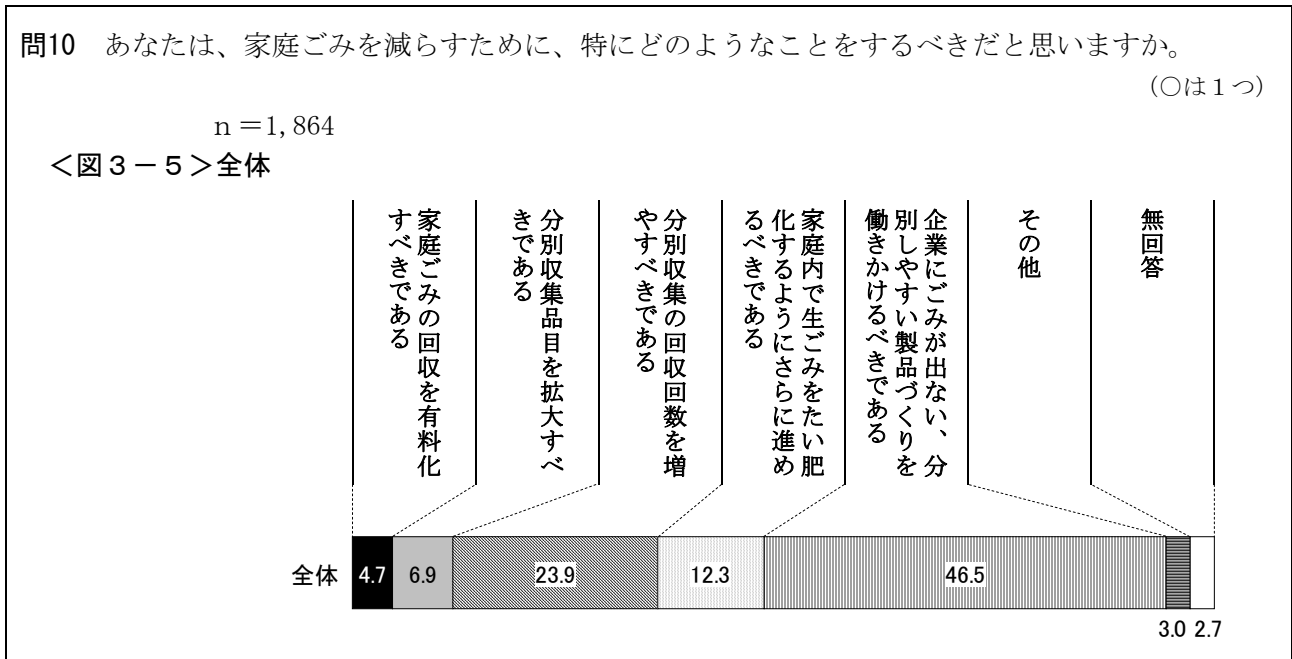


□使い捨て商品はなるべく
買わないようにしている



(3) ごみ減量のための対策

◇「企業への製品づくりの働きかけ」が半数に近く、「収集回数を増やす」は4人に1人



家庭ごみ減量のためになすべきこととしては、「企業にごみが出ない分別しやすい製品づくりを働きかけるべき」(46.5%)が最も高く4割半ばを超え、次の「分別収集の回収回数を増やすべきである」(23.9%)が4人に1人に近くなっている。また、「家庭内で生ごみをたい肥化するようさらに進めるべきである」(12.3%)は1割強である。(図3-5)

□属性別比較

性別でみると、「企業にごみが出ない分別しやすい製品づくりを働きかけるべき」は女性で半数に近く男性より6ポイント高いほかは大きな開きはない。

年齢別では、「分別収集の回収回数を増やすべきである」は40歳代で3割に近く、「企業にごみが出ない分別しやすい製品づくりを働きかけるべき」は30歳代でほぼ半数と、ともに比較的高くなっている。

地域別では、「企業にごみが出ない分別しやすい製品づくりを働きかけるべき」は金沢圏で5割台に乗り、能見台・富岡西圏でほぼ半数である。(図3-6)

<図3-6>性別/年齢別/地域別

